

日本災害情報学会第30回学会大会



大会プログラム

令和7（2025）年3月15日（土）～16日（日）

会場：東京大学 法学政治学系総合教育棟（ガラス棟）／大学院情報学環・福武ホール

◎3月15日（土）		
09:30	受付開始	[ガラス棟2階・ラウンジ]
10:00-11:40	口頭発表（セッション1）	[A・B・C会場]
13:00-13:50	廣井賞授賞式	[情報学環・福武ホール]
14:00-18:00	学会シンポジウム	[情報学環・福武ホール]
18:30-	意見交換会（ワークショップ）	[山上会館地下1階]
◎3月16日（日）		
08:30	受付開始	[ガラス棟2階・ラウンジ]
09:00-10:40	口頭発表（セッション2）	[A・B・C会場]
10:55-12:35	口頭発表（セッション3）	[A・B・C会場]
13:30-15:10	口頭発表（セッション4）	[A・B・C会場]
15:25-17:05	口頭発表（セッション5）	[A・B・C会場]
17:05-17:30	優秀発表賞授賞式（第29回・30回）	[A会場]

【参加方法・参加費など】

	正会員（名誉会員・賛助・購読会員含む）	学生会員	非会員（一般）	非会員（学生）
大会参加費	4,000円	2,000円	8,000円	4,000円

	社会人（社会人学生含む）	学生
意見交換会（ワークショップ）参加費	7,000円	3,500円

- 学会大会ならびに意見交換会に参加をご希望される方は、以下の URL（STORES）から参加チケットを購入してください。（どちらも参加される方は、「入場チケット」と「意見交換会チケット」をご購入ください）

購入サイト <https://kst123.stores.jp/>

- 購入後、登録したメールアドレスにチケット（PDF）が届きます。
- 学会大会に参加される方は、受付でチケットの提示をお願いします。
- 現地での参加費の支払いはご遠慮ください。
- 領収書は後日、学会事務局よりメールにてお送りいたします。領収書の個別希望への対応はできません。
- 予稿集の URL もチケットに記載されています。

【大会会場案内（アクセスマップ）】

会場：東京大学 法学政治学系総合教育棟（ガラス棟）／大学院情報学環・福武ホール
〒113-0033 東京都文京区本郷7丁目3-1

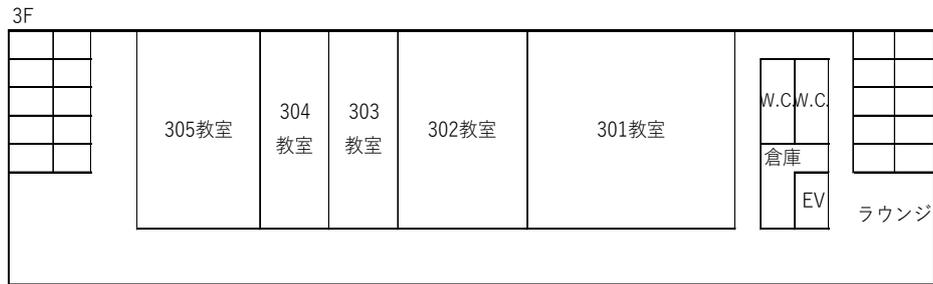
◆注意◆

現在、赤門が耐震性能の確保のため、閉鎖されています。本郷三丁目側よりお越しの方は、その手前にあります、「伊藤国際学術研究センター門（仮）」よりお入りください。



- 本郷三丁目駅（東京メトロ丸の内線、都営大江戸線）徒歩 8分
- 根津駅（東京メトロ千代田線）徒歩 10分
- 東大前（東京メトロ南北線）徒歩 5分
- 春日駅（都営三田線）徒歩 15分

【大会会場案内（会場内）】



※廣井賞・シンポジウムの受付は福武ホール地下2階で行います。



【学会に参加する全員の方に対する諸注意】

- チケットの購入は必ず事前に行ってください。
- オンラインでの中継はありません。
- 大会参加受付は、ガラス棟 2階です。会場にお越しの際は、受付にてチケット（電子または印刷したもの）を提示し、会場内にお入りください。
- 現地のネットワーク回線は、UTokyo-Guest、eduroam が使用可能です。
- 学会大会で使用する（指定された）会場以外の会議室等には、絶対に入室しないでください
- 発生したごみについては、各自でお持ち帰りいただくようお願いいたします。
- 貴重品の管理は各自の責任においてお願いいたします。万が一、盗難等の被害が発生しても、大会実行委員会では一切の責任を負えません。

【口頭発表される方全員に対する諸注意】

- 発表で使用する PC やコネクタ（会場では HDMI 端子利用可）等は各自でご用意ください。実行委員会では機材貸出・技術的サポートの用意はありません。
- なお、Mac をお使いの方は会場機材との接続を必ず確認していただきますようお願いいたします。
- 発表 1 件につき、10 分発表+5 分質疑です。各セッションの最後に 10 分の総合討論の時間を設けます。なお、時間経過は以下のタイミングでお知らせしますが、念のため、お手元等でも計測をお願いいたします。
 - 8分 1 鈴
 - 10分 2 鈴（発表終了）
 - 15分 3 鈴（質疑応答終了）
- 動画を流す場合は、なるべくパワーポイントに埋め込む形にしてください。
- 優れた口頭発表には、「優秀発表賞」を授与いたします（若手研究者・学生（40 歳以下）が対象）。なお、過去に阿部賞／河田賞／若手研究発表会・若手発表奨励賞（2021 年 4 月開催）／学会大会優秀発表賞を受賞した方は対象外となります。
- 発表を辞退する場合も、学会大会実行委員会・研究発表担当まで必ずご連絡ください。

お困りの際は、以下まで連絡をください。

学会大会実行委員会・研究発表担当 jasdis.taikai@gmail.com

「南海トラフ地震

臨時情報

を議論する

日時 **2025 3月15日** (土)
14:00~18:00
(受付開始 13時30分)

場所 **東京大学大学院情報学環・福武ホール**
地下2階 福武ラーニングシアター

参加費 **無料**(会員以外も参加可能、事前申込制)

東日本大震災以降、地震の予知情報を前提とした防災体制からの転換が図られた。その一環として導入されたのが南海トラフ地震臨時情報である。そして、昨年8月8日には初めて「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」が発表され、大きな話題となった。この情報は南海トラフ地震という想定災害に対して、防災の観点からどのように活用できるのか。本シンポジウムでは制度設計に関わった方々をお招きし、メディアや自治体など多様な視点を交えながら、この情報の活用方法について議論する。

シンポジウム内容

開会挨拶

福島 隆史(副会長/TBSテレビ報道局解説委員)

特別講演

南海トラフ地震臨時情報とは何か

平田 直(東京大学 名誉教授)

基調講演1

南海トラフ地震臨時情報成立の経緯

横田 崇(愛知工業大学 地域防災研究センター長・教授)

基調講演2

大震法の視点で南海トラフ地震臨時情報を見る

岩田 孝仁(会長/静岡大学防災総合センター 特任教授)

パネルディスカッション

登壇者

平田 直(東京大学 名誉教授)

横田 崇(愛知工業大学 地域防災研究センター長・教授)

岩田 孝仁(会長/静岡大学防災総合センター 特任教授)

飯田 和樹(フリージャーナリスト)

中川 琳(静岡新聞社社会部 記者)

中村 吉雄(陸前高田市 防災局防災課 課長兼防災対策監/
岩手大学地域防災研究センター 客員准教授)

コーディネーター: 安本 真也

(東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター 特任助教)

閉会挨拶

全体司会: 福本 晋悟

(毎日放送報道情報局報道センター)

主催 お問い合わせ先

日本災害情報学会事務局

✉ tokio@jasdis.gr.jp

☎ 03-3268-2400 (平日 10:00~17:00)

お申し込み先



<https://x.gd/4m1tr>



●発表スケジュール（簡易版）

日本災害情報学会第30回学会大会プログラム

1日目（3月15日 9:30 受付開始：ガラス棟2階ラウンジ）

	101 (A会場)	102 (B会場)	201 (C会場)	情報学環・福武ホール
セッション1 10:00-11:40	南海トラフ地震・ 臨時情報① 座長:石橋 真帆	避難・噴火 座長:秦 康範	災害対応 I 座長:本間 基寛	
昼休み				
表彰 13:00-13:50				廣井賞授賞式
シンポジウム 14:00-18:00				「南海トラフ地震臨時 情報」を議論する
交流会 18:30-	山上会館 地下1階			

2日目（3月16日 8:30 受付開始：ガラス棟2階ラウンジ）

	101 (A会場)	102 (B会場)	201 (C会場)	情報学環・福武ホール
セッション2 9:00-10:40	南海トラフ地震・ 臨時情報② 座長:福島 隆史	コミュニティ・継承 座長:大津山 堅介	災害対応 II 座長:伊勢 正	
セッション3 10:55-12:35	能登半島地震 座長:中村 功	リスク・社会調査 座長:及川 康	災害対応 III 座長:阪本 真由美	
昼休み				
セッション4 13:30-15:10	情報・コミュニケ- ーション 座長:近藤 伸也	メディア 座長:廣井 悠	水害 座長:金井 昌信	
セッション5 15:25-17:05	コミュニケーション 座長:水野 一成	地震・噴火・情報行 動 座長:平山 修久	防災気象情報 座長:竹之内 健介	
表彰 17:05-17:30	優秀発表賞授賞式 (第29回・30回)			

●発表スケジュール（詳細版）

3月15日（土）10:00～11:40 セッション1

101教室(A会場)

A1 南海トラフ地震・臨時情報①（座長 石橋 真帆）

A1-1 南海トラフ地震臨時情報に伴う災害用携帯トイレの市場動向調査と課題

- 鬼頭 直（一般財団法人 河川情報センター）
- 田中 耕司（一般財団法人 河川情報センター／兵庫県立大学大学院）
- 島村 允也（特定非営利活動法人 日本トイレ研究所）
- 加藤 篤（特定非営利活動法人 日本トイレ研究所）
- 朝堀 泰明（一般財団法人 河川情報センター）
- 池内 幸司（一般財団法人 河川情報センター／東京大学名誉教授）

A1-2 小学校校長の災害対応に関する研究—南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）への対応に着目して—

- 川原 耕一（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科）
- 阪本真由美（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科）

A1-3 津波浸水エリアに位置する保育施設の南海トラフ地震臨時情報への対応

- 西村 実穂（東京未来大学こども心理学部）
- 中野 晋（徳島大学環境防災研究センター）
- 上白川沙織（徳島大学医歯薬学研究部）
- 金井 純子（徳島大学社会産業理工学研究部）

A1-4 臨時情報対応における行政職員の「平常／非常」の両立—2024年8月の高知県・黒潮町役場を例に—

- 黒澤宗一郎（京都大学大学院情報学研究科）
- 矢守 克也（京都大学防災研究所）

A1-5 誰がどこまでの対策を許容するのか—2024年8月8日発出の南海トラフ臨時情報を事例に—

- 石橋 真帆（東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター）
- 安本 真也（東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター）
- 荒木 優弥（特定非営利活動法人 環境防災総合政策研究機構）
- 作間 敦（NTT データ経営研究所／東京大学大学院 学際情報学府）
- 三宅真太郎（東京大学大学院 学際情報学府）
- 関谷 直也（東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター）
- 横田 崇（愛知工業大学 地域防災研究センター）

3月15日（土）10:00～11:40 セッション1

102教室(B会場)

B1 避難・噴火（座長 秦 康範）

B1-1 津波避難におけるペDESTリアンデッキの有用性に関する研究 —横浜駅周辺を対象にしたマルチエージェントシミュレーションによる分析—

- 山内 壮泰（東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻）
- 四井 早紀（東京大学 先端科学技術研究センター）
- 大津山堅介（東京大学 先端科学技術研究センター）
- 廣井 悠（東京大学 先端科学技術研究センター）

- B1-2 富士山噴火による首都圏での都市機能の時間的・空間的喪失の類型化
 和田 佳祐 (東京大学 大学院工学系研究科 都市工学専攻)
 四井 早紀 (東京大学 先端科学技術研究センター)
 大津山堅介 (東京大学 先端科学技術研究センター)
 廣井 悠 (東京大学 先端科学技術研究センター)
- B1-3 災害に対する人々の状況判断と行動の曖昧性について
 渡邊 峻介 (東洋大学 理工学部 都市環境デザイン学科)
 及川 康 (東洋大学 理工学部 都市環境デザイン学科)
- B1-4 引き渡しに伴う車両利用の影響評価と意向調査 静岡県裾野市小中合同引き渡し訓練における
 ケーススタディ
 浪越 圭一 (トヨタ自動車株式会社 未来創生センター)
 佐多 宏太 (トヨタ自動車株式会社 未来創生センター)
- B1-5 人流シミュレーションを用いた原子力災害避難時の甲状腺被ばく線量モニタリング体制の検討
 弓削 湧輔 (福井大学 工学研究科)
 岩崎 洋亮 (福井大学 工学研究科)
 安田 仲宏 (福井大学附属国際原子力工学研究所、東日本大震災・原子力災害伝承館)
- B1-6 災害時の迅速な避難誘導を可能にするアクションチェックバックの活用に関する研究
 日比野由奈 (愛知工業大学名電高等学校 防災チーム MDPT)
 小村 柑七 (愛知工業大学名電高等学校 防災チーム MDPT)
 小坂 真穂 (愛知工業大学名電高等学校 防災チーム MDPT)
 建部 恵子 (愛知工業大学名電高等学校)

3月15日(土) 10:00~11:40 セッション1

201 教室(C会場)

C1 災害対応 I (座長 本間 基寛)

- C1-1 防災啓発活動の啓発側における「我が事」化の試み：自治体職員が自ら防災行動をとるために必要なことは？
 竹 順哉 (京都大学大学院 情報学研究科)
 矢守 克也 (京都大学防災研究所 巨大災害研究センター)
- C1-2 状況付与カードの自動作成システムの付与内容の具体性向上に関する検討 一発災時間やタイムライン等の考慮
 李 知殷 (株式会社構造計画研究所)
 小山 智加 (株式会社構造計画研究所)
 後藤 裕瑛 (株式会社構造計画研究所)
 平野 剛 (株式会社構造計画研究所)
 米山 照彦 (株式会社構造計画研究所)
 工藤 隼人 (防災科学技術研究所 (NIED) 先進防災技術連携研究センター)
 筒井 和男 (防災科学技術研究所 (NIED) 先進防災技術連携研究センター)
 伊勢 正 (防災科学技術研究所 (NIED) 先進防災技術連携研究センター)

- C1-3 災害時における救急搬送と人的・物的支援の双方を考慮した道路啓開のシミュレーション解析
田尻 翔吾（兵庫県立大学環境人間学部環境人間学科）
中桐 斉之（兵庫県立大学環境人間学部環境人間学科）
- C1-4 市街地火災における消防活動量の分析－2016 年糸魚川市大規模火災・2024 年輪島市大規模火災の事例から－
成井 竣亮（東京大学 工学部都市工学科（現東京消防庁））
四井 早紀（東京大学 先端科学技術研究センター）
大津山堅介（東京大学 先端科学技術研究センター）
廣井 悠（東京大学 先端科学技術研究センター）
- C1-5 物的環境の整備につながる防災まちづくり活動の主体とプロセスに関する研究－SCAT を用いた防災まちづくり大賞受賞事例の質的データ分析－
木村 明（東京大学工学部都市工学科）
四井 早紀（東京大学 先端科学技術研究センター）
大津山堅介（東京大学 先端科学技術研究センター）
廣井 悠（東京大学 先端科学技術研究センター）
- C1-6 中山間地域集落における災害時自活力の評価と災害支援に関する提案
三浦 雅久（宇都宮大学地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科）
近藤 伸也（宇都宮大学地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科）

3月16日（日）09:00～10:40 セッション2

101 教室(A会場)

A2 南海トラフ地震・臨時情報②（座長 福島 隆史）

- A2-1 東海地震・南海トラフ地震に備えるテレビの防災報道 30 年間伝え続けてきた「備えの中身」の分析
岩崎 大輔（静岡放送株式会社 報道制作局報道部）
- A2-2 社会福祉施設における南海トラフ地震対策－令和6年8月8日南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）への対応－
木作 尚子（名古屋大学減災連携研究センター）
平山 修久（名古屋大学減災連携研究センター）
千葉 啓広（名古屋大学減災連携研究センター）
野村 一保（名古屋大学減災連携センター）
福和 伸夫（名古屋大学名誉教授）
- A2-3 2024 年「南海トラフ地震臨時情報（調査中）」発表時テレビは何を伝えたのか－在阪局の放送内容から－
福本 晋悟（毎日放送報道情報局報道センター（人と防災未来センター 特別研究調査員））
- A2-4 南海トラフ地震臨時情報に対する愛媛県下の状況
森岡 千穂（松山大学人文学部社会学科）
中村 功（東洋大学社会学部メディアコミュニケーション学科）

A2-5 長野県の「南海トラフ地震防災対策推進地域」住民を対象とした「臨時情報」への対応調査—
“海なし県”の住民はどう動いたか—
入江さやか（松本大学 地域防災科学研究所）

A2-6 「北海道・三陸沖後発地震注意情報」はどう伝わるか 過去の“先発”49地震からのメッセージ
を読み解く
福島 隆史（TBSテレビ報道局）

3月16日（日）09:00～10:40 セッション2

102教室(B会場)

B2 コミュニティ・継承（座長 大津山 堅介）

B2-1 防災の視点から見た地域イベントの在り方

小田部奎介（宇都宮大学地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科）

近藤 伸也（宇都宮大学地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科）

B2-2 時代に即した共助の在り方の考察—地区防災活動の事例比較—

山本 航志（香川大学創造工学部創造工学科）

磯打千雅子（香川大学 IECMS 地域強靱化研究センター）

B2-3 テキストマイニングによる防災啓発施設の機能提言—来館者のレビュー評価を用いて—

湯浅 和真（香川大学 創造工学部創造工学科）

磯打千雅子（香川大学 IECMS 地域強靱化研究センター）

B2-4 発足間もない町内会に見る災害時の共助の機能—平成30年7月豪雨の被災地の事例—

萩本 秀樹（団体職員）

開沼 博（東京大学大学院情報学環／東日本大震災・原子力災害伝承館）

B2-5 人と防災未来センターにおけるインクルーシブな展示に向けた取り組み：障害当事者による評
価を通して

正井 佐知（神戸医療未来大学人間社会学部）

木作 尚子（名古屋大学 減災連携研究センター）

池端裕一朗（人と防災未来センター 研究部）

杉原 優太（人と防災未来センター 研究部、鳥取県）

3月16日（日）09:00～10:40 セッション2

201教室(C会場)

C2 災害対応Ⅱ（座長 伊勢 正）

C2-1 交通事故発生に対する交通乗用具を販売する企業家の対処行動とウェルビーイング：中国にお
けるバイク事故の事例分析

黄 琪（岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科）

C2-2 東電福島第一原発事故後5日間における時空間情報の統合による放射線防護対策の検証（2）

中尾 虹海（福井大学工学研究科）

吉田佳乃子（福井大学工学研究科）

弓削 湧輔（福井大学工学研究科）

谷山勇士朗（福井大学工学研究科）

安田 仲宏 (福井大学附属国際原子力工学研究所、東日本大震災・原子力災害伝承館)

C2-3 東電福島第一原発事故後 5 日間における時空間情報の統合による放射線防護対策の検証 (3)

吉田佳乃子 (福井大学工学研究科)

中尾 虹海 (福井大学工学研究科)

弓削 湧輔 (福井大学工学研究科)

谷山勇士朗 (福井大学工学研究科)

安田 仲宏 (福井大学附属国際原子力工学研究所、東日本大震災・原子力災害伝承館)

C2-4 栃木県上三川町における地震対策地区タイムラインの作成と防災拠点に関する検討

田崎 康平 (宇都宮大学地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)

近藤 伸也 (宇都宮大学地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)

C2-5 田んぼダムの流域全体での取り組みに向けた波及要因の分析とワークショップの設計

矢ヶ崎伶音 (宇都宮大学地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)

近藤 伸也 (宇都宮大学地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)

C2-6 みちのく ALERT2024 におけるデータ連携の取組 -SIP 第 3 期「スマート防災ネットワークの構築」より-

伊勢 正 (防災科学技術研究所)

田口 仁 (防災科学技術研究所)

越村 俊一 (東北大学 災害科学国際研究所)

市川 学 (芝浦工業大学)

大和田泰伯 (情報通信研究機構)

坂野 寿和 (株式会社 国際電気通信基礎技術研究所)

深田 俊明 (株式会社 ATR-Trek)

古川 昭彦 (防災科学技術研究所)

3 月 16 日 (日) 10:55~12:35 セッション 3

101 教室(A 会場)

A3 能登半島地震 (座長 中村 功)

A3-1 モバイル位置情報データを用いた令和 6 年能登半島地震発生時の石川県七尾市における避難行動の分析

四井 早紀 (東京大学先端科学技術研究センター)

牧野嶋文泰 (東北大学災害科学国際研究所)

佐藤 翔輔 (東北大学災害科学国際研究所)

今村 文彦 (東北大学災害科学国際研究所)

A3-2 令和 6 年能登半島地震後の全天球路上画像の公開と課題 - 石川県珠洲市における探索的研究

大伏 仙泰 (東京大学 先端科学技術研究センター)

大津山堅介 (東京大学 先端科学技術研究センター)

稲見 昌彦 (東京大学 先端科学技術研究センター)

A3-3 石川県能登半島地域における二重被災の実態と影響

LEE SEUNGMIN (東京大学大学院学際情報学府)

鍵 慶和 (東京大学大学院学際情報学府)

石橋 真帆（東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター）
安本 真也（東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター）
関谷 直也（東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター）

A3-4 “二重被災”が被災者にもたらす影響—令和6年能登半島地震1年後調査から—
鍵 慶和（東京大学大学院学際情報学府）
LEE SEUNGMIN（東京大学大学院学際情報学府）
石橋 真帆（東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター）
安本 真也（東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター）
関谷 直也（東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター）

A3-5 令和6年能登半島地震の被災地域におけるコミュニケーションと情報取得の状況
安積 昇陽（関西学院大学建築学部）
門脇 直己（関西学院大学建築学部）
小柳蓮太郎（関西学院大学建築学部）
照本 清峰（関西学院大学建築学部）

A3-6 マスコミ報道の能登半島地震への影響—取り下げ、過少報道(取材不足)～過剰報道—
高田 昭彦（復興ボランティアタスクフォース 代表／富士フィルムビジネスイノベーションジャパン 勤務）

3月16日（日）10:55～12:35 セッション3

102 教室(B会場)

B3 リスク・社会調査（座長 及川 康）

- B3-1 ラジオはいかに災害情報インフラであり続けるのか
「荒川区中学生調査」防災意識と情報行動の実態①
佐藤 彩乃（東京大学大学院情報学環）
栗田 雅彦（尾西食品株式会社）
開沼 博（東京大学大学院情報学環、東日本大震災・原子力災害伝承館）
- B3-2 中学生はいかに防災の担い手になりえるか
「荒川区中学生調査」の防災意識と情報行動の実態②
田中 大翔（荒川区立尾久八幡中学校）
遠藤 李江（荒川区立尾久八幡中学校）
桃井 有子（荒川区立尾久八幡中学校）
栗田 雅彦（尾西食品株式会社）
佐藤 彩乃（東京大学大学院）
開沼 博（東京大学大学院、東日本大震災・原子力災害伝承館）
- B3-3 北海道の冬季の避難所における就寝環境に関する調査
鈴木 章弘（北海道大学大学院工学研究院）
山田 朋人（北海道大学大学院工学研究院）
- B3-4 大規模水害時の避難のあり方の検討—江東5区民間施設へのアンケートを踏まえた推計—
則竹 桃実（東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻）
四井 早紀（東京大学 先端科学技術研究センター）

大津山堅介（東京大学 先端科学技術研究センター）

廣井 悠（東京大学 先端科学技術研究センター）

B3-5 土地利用細分メッシュデータを用いた東日本大震災被災地の復興後における再被災リスク分析

谷 聡介（東京大学工学部都市工学科）

四井 早紀（東京大学 先端科学技術研究センター）

大津山堅介（東京大学 先端科学技術研究センター）

廣井 悠（東京大学 先端科学技術研究センター）

B3-6 香川県島しょ部における大規模災害を想定した観光危機管理対策に関する考察

園田 恒亮（香川大学 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 地域強靱化研究センター）

磯打千雅子（香川大学 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 地域強靱化研究センター）

湯浅 和真（香川大学 創造工学部 防災・危機管理コース）

3月16日（日）10:55~12:35 セッション3

201 教室(C会場)

C3 災害対応Ⅲ（座長 阪本 真由美）

C3-1 「やさしいにほんごでぼうさいかるた」が持つ災害弱者への防災啓発ツールとしての汎用性

海老名悠希（常磐大学・YKストレスケアオフィス）

水谷 浩子（防災士・やさしい日本語普及連絡会「入門・やさしい日本語」認定講師）

C3-2 基礎自治体における高齢者防災施策の部局間連携の実態:兵庫県内市町への質問紙調査結果の報告

安藤亜矢子（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科）

紅谷 昇平（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科）

C3-3 静岡県内の指定緊急避難場所と津波避難ビル等の現状に関する考察

杉村 晃一（静岡市役所 危機管理課・静岡大学防災総合センター）

牛山 素行（静岡大学教授 防災総合センター）

C3-4 災害実動機関向け可搬型 ICT システム: X-FACE の活用法に関するシミュレーション実験・108

坂野 寿和（株式会社国際電気通信基礎技術研究所）

Ojetunde Babatunde（株式会社国際電気通信基礎技術研究所）

鈴木 昌広（株式会社国際電気通信基礎技術研究所）

中村 明（株式会社 ATR-Trek）

深田 俊明（株式会社 ATR-Trek）

C3-5 自治体、実動機関へのインタビュー調査による生成 AI を活用した図上訓練状況付与システムの効果検証

筒井 和男（防災科学技術研究所先進防災技術連携研究センター）

工藤 隼人（防災科学技術研究所先進防災技術連携研究センター）

古川 昭彦（防災科学技術研究所先進防災技術連携研究センター）

伊勢 正（防災科学技術研究所先進防災技術連携研究センター）

小山 智加（株式会社構造計画研究所）

李 知殷（株式会社構造計画研究所）

後藤 裕瑛（株式会社構造計画研究所）

平野 剛 (株式会社構造計画研究所)

米山 照彦 (株式会社構造計画研究所)

C3-6 災害時の難病患者支援のための都道府県と市町村間連携—大阪府による個別避難計画の実践に着目して—

阪本 真由美 (兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科)

3月16日(日) 13:30-15:10 セッション4

101教室(A会場)

A4 情報・コミュニケーション (座長 近藤 伸也)

A4-1 緊急時の命を守るための説得—走行中の車内で旅客に適切な行動を促す車内放送に関する研究

福井 桃子 (東京大学大学院学際情報学府修士課程)

関谷 直也 (東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター)

A4-2 学校防災授業の効果とその課題

渡邊 啓太 (愛知工業大学工学部土木工学科防災土木工学専攻)

小泉 奈子 (愛知工業大学工学部土木工学科防災土木工学専攻)

横田 崇 (愛知工業大学工学部土木工学科教授/愛知工業大学地域防災研究センター長)

A4-3 聴覚障がい者の災害情報へのアクセス改善に関する研究

田中穂乃香 (京都大学大学院 情報学研究科)

矢守 克也 (京都大学防災研究所)

A4-4 情報都市化社会における都心の「アンテナショップ」の可能性——日本橋ふくしま館 MIDETTE の情報発信に着目して——

吉田 豊 (筑波大学大学院 人文社会ビジネス科学学術院人文社会科学研究群)

小野恵里歌 (福島県立福島高等学校2年)

開沼 博 (東京大学大学院 情報学環・東日本大震災・原子力災害伝承館)

A4-5 動画で雨トレを活用した松山港港湾関係者を対象とした気候変動リスクコミュニケーション

蒲地 航大 (香川大学 創造工学部)

竹之内健介 (香川大学 創造工学部)

A4-6 雨への関心度を高めるための表現手法の検討～メディアのお天気コーナーを通じて～

桑田 菜央 (香川大学 創造工学部)

竹之内健介 (香川大学 創造工学部)

3月16日(日) 13:30-15:10 セッション4

102教室(B会場)

B4 メディア (座長 廣井 悠)

B4-1 福島へのアンコンシャス・バイアス: 「Fukushima water」から見るメディアが無意識に生産する差別や偏見の分析

相本 啓太 (ジャーナリスト)

開沼 博 (東京大学大学院 情報学環/東日本大震災・原子力災害伝承館)

- B4-2 福島原発処理水に関する米国の新聞報道における識者コメントの分析
馬路ひなの（東京大学大学院学際情報学府）
- B4-3 「SNS ネイティブ調査」と災害時のメディアの必要性
小山田 洸太（栃木県立大田原高等学校）
開沼 博（東京大学大学院 情報学環・東日本大震災・原子力災害伝承館）
- B4-4 2018年以降のロケーションデータから読み取る福島県双葉郡8町村の時系列変化
三浦 瑞貴（東京大学大学院学際情報学府）
関谷 直也（東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター）
- B4-5 災害の周年報道と集合的記憶 一阪神・淡路大震災 30年 テレビ特別番組の内容分析ー
川西 勝（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科）
- B4-6 災害因果ネットワークを用いた令和6年能登半島地震におけるエスカレーションポイントの探索的検討
廣井 悠（東京大学先端科学技術研究センター）
塩崎 洸（株式会社構造計画研究所）
坂平 文博（大阪工業大学 情報科学部）
志村 泰知（株式会社構造計画研究所）
小野晋太郎（株式会社構造計画研究所）

3月16日（日）13:30-15:10 セッション4

201 教室(C会場)

C4 水害（座長 金井 昌信）

- C4-1 台風の基礎知識から研究まで 実感をもって学べる台風コンテンツの開発と実践
貞光 千春（横浜国立大学 総合学術高等研究院 台風科学技術研究センター (TRC)）
筆保 弘徳（横浜国立大学 総合学術高等研究院 台風科学技術研究センター (TRC)）
- C4-2 ハザードマップの認識度と逃げ地図による意識に関する考察-沖縄県北谷町住民を対象に-
小林 由香（東洋大学大学院 国際学研究科 国際地域学専攻）
松丸 亮（東洋大学 国際学部 国際地域学科）
- C4-3 令和5年7月豪雨による秋田県五城目町の浸水被害と避難情報の発令状況
中野 晋（徳島大学環境防災研究センター）
蔣 景彩（徳島大学環境防災研究センター）
金井 純子（徳島大学大学院社会産業理工学研究部）
西村 実穂（東京未来大学こども心理学部）
渡辺 一也（秋田大学大学院理工学研究科）
徳永 雅彦（徳島県出納局）
- C4-4 マルチエージェントシミュレーションによる津波災害時の消防団による避難支援活動の評価(第二報)
山吹 和也（北海道大学大学院情報科学研究院 システム情報科学部門 システム創成学分野）
小野里雅彦（北海道大学大学院情報科学研究院 システム情報科学部門 システム創成学分野）
田中 文基（北海道大学大学院情報科学研究院 システム情報科学部門 システム創成学分野）

C4-5 1999～2023年の風水害人的被害に関する基礎的特徴

牛山 素行（静岡大学防災総合センター）

C4-6 水害から命を守ることに特化した地域防災の実践とその効果の検証

金井 昌信（群馬大学 大学院理工学府）

真庭 百花（群馬大学 大学院理工学府博士前期課程環境創生理工学教育プログラム）

3月16日（日）15:25～17:05 セッション5

101 教室(A会場)

A5 コミュニケーション（座長 水野 一成）

A5-1 東日本大震災前後の「福島」に関する全量日本語ツイートの量的分析—災害に関するキーワードに着目して—

安本 真也（東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター）

瀬川 至朗（早稲田大学大学院政治学研究科ジャーナリズムコース）

河井 大介（青山学院大学総合文化政策学部／東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター）

開沼 博（東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター）

石橋 真帆（東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター）

A5-2 防災アプリの情報品質向上の可能性と課題

有馬 昌宏（兵庫県立大学）

川向 肇（兵庫県立大学）

A5-3 チャリティーアニメ配信に見る地縁・地域コミュニティの変容と支援者の細分化について

柳瀬 一樹（東京大学大学院学際情報学府／株式会社アンネル）

開沼 博（東京大学大学院情報学環 准教授／東日本大震災・原子力災害伝承館 上級研究員）

A5-4 浜通り中4町のサプライチェーンに関する実態と課題 —浪江町の飲食店を対象としたケーススタディ—

山田 拓実（東京大学大学院情報学環）

吉田 豊（筑波大学人文社会ビジネス科学学術院）

根本 豪己（東京大学工学部都市工学科）

開沼 博（東京大学大学院情報学環・東日本大震災・原子力災害伝承館）

A5-5 災害伝承による「当事者性の獲得」に関する一考察

森本 翔太（東洋大学大学院 理工学研究科 都市環境デザイン専攻）

及川 康（東洋大学 理工学部 都市環境デザイン学科）

A5-6 災害に関する情報を SNS で発信・拡散した経験のある人の特性 —情報に関する意思の回答傾向を基に分析—

水野 一成（NTT ドコモ モバイル社会研究所）

近藤勢津子（NTT ドコモ モバイル社会研究所）

吉良 文夫（NTT ドコモ モバイル社会研究所）

3月16日(日) 15:25~17:05 セッション5

102教室(B会場)

B5 地震・噴火・情報行動(座長 平山 修久)

B5-1 「SNS ネイティブ世代」の情報行動と防災

中込 達也(東京大学大学院情報学環教育部)

開沼 博(東京大学大学院情報学環・東日本大震災・原子力災害伝承館)

B5-2 地震災害時におけるマルチセンシングデータを用いた孤立集落の推定手法の開発

藤田 翔乃(防災科学技術研究所 先進防災技術連携研究センター)

田口 仁(防災科学技術研究所 先進防災技術連携研究センター)

取出 新吾(防災科学技術研究所 先進防災技術連携研究センター)

平 春(防災科学技術研究所 先進防災技術連携研究センター)

君嶋 里美(防災科学技術研究所 先進防災技術連携研究センター)

B5-3 稀にしか起こらない不確実性の高い事象に対する中学生の関心醸成～富士山噴火災害の防災授業設計

佐多 宏太(トヨタ自動車株式会社 未来創生センター)

黒岩 祥太(株式会社現代文化研究所 調査研究本部)

方 竹紫(株式会社現代文化研究所 調査研究本部)

B5-4 裾野市富岡中学における噴火災害防災授業の評価—主体性と地域との連携の観点を踏まえて—

黒岩 祥太(株式会社現代文化研究所 調査研究本部)

佐多 宏太(トヨタ自動車株式会社 未来創生センター)

方 竹紫(株式会社現代文化研究所 調査研究本部)

B5-5 1984年9月長野県西部地震で誕生した臨時災害放送局について

生田 明子(SBC信越放送ラジオ編成制作部)

B5-6 社会の相転移からみた水道管路耐震化に関する考察

平山 修久(名古屋大学減災連携研究センター)

河田 恵昭(関西大学)

3月16日(日) 15:25~17:05 セッション5

201教室(C会場)

C5 防災気象情報(座長 竹之内 健介)

C5-1 気象情報の伝え手と受け手のリスクコミュニケーション—気象キャスターワークショップを通じた伝え方の検討

前田 智宏(京都大学大学院 情報学研究科/株式会社 南気象予報士事務所)

矢守 克也(京都大学 防災研究所 巨大災害研究センター)

C5-2 論理的記号論における防災気象情報の位置づけに関する考察

本多 祥大(日本大学大学院新聞学研究科/東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター 特任研究員)

C5-3 土砂災害警戒情報の有効性と課題: 技術的限界を踏まえた提言

赤石 一英(気象庁)

横田 崇(愛知工業大学)

C5-4 気象庁の予報作業支援システムの変遷からみる“防災”への指向と業務の変化
島川 英介（東洋大学国際学研究科／日本放送協会）

C5-5 路面冠水の警報表示に関する検討

田子 和利（名古屋電機工業株式会社）

湯川久美子（名古屋電機工業株式会社）

坪内 扇二（名古屋電機工業株式会社）

滝沢 正仁（拓殖大学工学部デザイン学科）

C5-6 台湾の台風休みに対する日本における基礎的検討～台風休みは社会にどのように受け止められるのか～

竹之内健介（香川大学創造工学部）

李 勇昕（茨城大学地球・地域環境共創機構・日本学術振興会 特別研究員）